

# nikko am

Nikko Asset Management

## ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド(毎月分配型) 為替ヘッジあり

追加型投信／海外／その他資産（バンクローン）

### 交付運用報告書

第64期（決算日2018年12月17日） 第65期（決算日2019年1月15日） 第66期（決算日2019年2月15日）

第67期（決算日2019年3月15日） 第68期（決算日2019年4月15日） 第69期（決算日2019年5月15日）

作成対象期間（2018年11月16日～2019年5月15日）

第69期末（2019年5月15日）	
基準価額	8,443円
純資産総額	1,219百万円
第64期～第69期	
騰落率	0.1%
分配金（税込み）合計	180円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド（毎月分配型）為替ヘッジあり」は、2019年5月15日に第69期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、米国の優先担保付バンクローン（貸付債権）を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

### 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

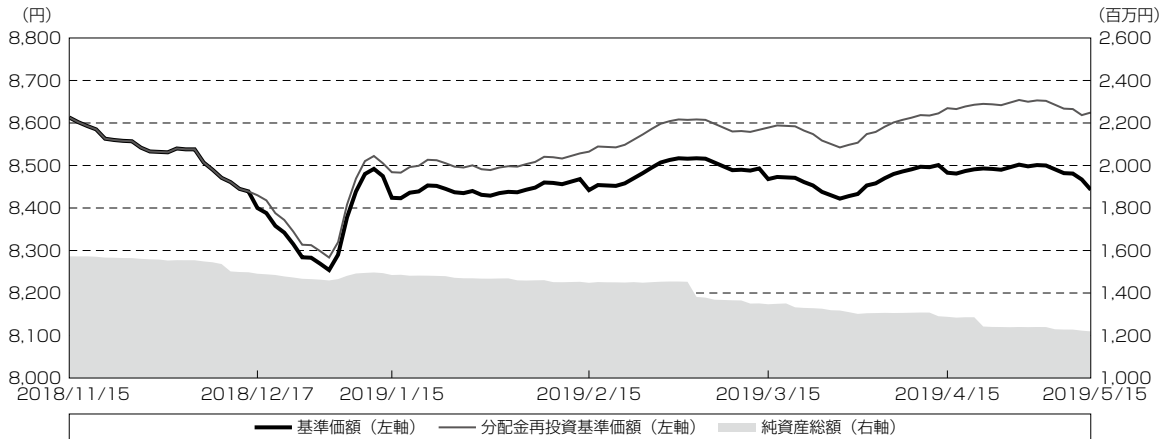
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2018年11月16日～2019年5月15日)



第64期首：8,613円  
 第69期末：8,443円 (既払分配金(税込み)：180円)  
 騰落率：0.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2018年11月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

### ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、米国の優先担保付バンクローン(貸付債権)を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

### <値上がり要因>

- ・2019年以降、米FRB(連邦準備制度理事会)が利上げを見送るなど、ハト派的な金融政策に方針転換したことが金融市場の下支え要因となるなか、米国バンクローン市況が上昇したこと。
- ・米国バンクローンの金利収入を獲得したこと。

<値下がり要因>

- ・2018年12月にFRBが利上げを実施したことや、米中貿易摩擦の激化に対する懸念の高まりから景気後退懸念が広がったことを背景に、リスク性資産が急落するなか、米国バンクローン市況が下落したこと。
- ・為替ヘッジに伴うコストがマイナスに影響したこと。

1万口当たりの費用明細

(2018年11月16日～2019年5月15日)

項 目	第64期～第69期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 71	% 0.846	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(42)	(0.493)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(28)	(0.337)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	( 1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	4	0.050	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷費用)	( 4)	(0.047)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
(その他)	( 0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	75	0.896	
作成期間の平均基準価額は、8,443円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

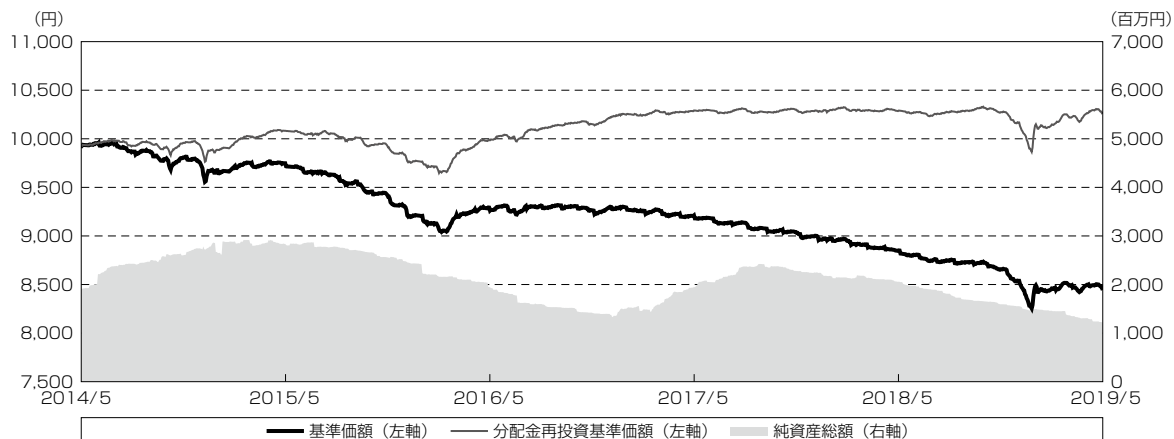
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年5月15日～2019年5月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2014年5月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年5月15日 決算日	2015年5月15日 決算日	2016年5月16日 決算日	2017年5月15日 決算日	2018年5月15日 決算日	2019年5月15日 決算日
基準価額 (円)	9,940	9,717	9,261	9,181	8,819	8,443
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	360	360	360	360	360
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.4	△1.0	3.1	△0.0	△0.2
純資産総額 (百万円)	1,909	2,816	1,942	1,940	2,048	1,219

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 投資環境

(2018年11月16日～2019年5月15日)

### (バンクローン市況)

期間の初めは、中国情報通信大手幹部の逮捕などを背景に米中関係の悪化が懸念されたことや、FRBが利上げを実施したことなどから景気後退懸念が広がり、バンクローンを含む幅広いリスク性資産が急落する展開となりました。しかし2019年に入ると、FRBが利上げを見送るなど緩和的な金融政策に方針転換を図ったことや、米中通商協議の進展に対する期待の高まりが金融市場の下支え要因となったことを背景にリスク性資産が大幅に反発する展開となり、米国バンクローン市況も上昇しました。期間末は、FRBが米国の経済成長率予想を引き下げたことなどがマイナス要因となりましたが、好調な米国企業の決算や米国ISM製造業景気指数などの経済指標が堅調だったことがプラス要因となり、米国バンクローン市況は上昇する展開となりました。期間を通じて見ると、米国バンクローン市況は上昇する結果となりました。

### (国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの $-0.07\%$ 近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、 $-0.03\%$ 近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券(TB)3ヵ月物金利は、期間の初めの $-0.24\%$ 近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、 $-0.16\%$ 近辺で期間末を迎えました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2018年11月16日～2019年5月15日)

### (当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J (JPY)」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

### (PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J (JPY))

景気サイクルの後期と考えられることや米中貿易摩擦などの政治リスクが意識されるなか、マクロ環境の変化に対する耐性なども考慮しながら、慎重に業種・銘柄選択を行ないました。具体的には、米国の住宅市場の回復の恩恵を受けやすい建築資材セクターや参入障壁が高くキャッシュフローが安定していると考えられるヘルスケアセクターなどの投資比率を多めとしました。一方、参入障壁が低く景気循環の影響を受けやすい小売セクターや、競争が激しい通信セクターへの投資比率を少なめとしました。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないました。

### (マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年11月16日～2019年5月15日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 分配金

(2018年11月16日～2019年5月15日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりいたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期
	2018年11月16日 ～2018年12月17日	2018年12月18日 ～2019年1月15日	2019年1月16日 ～2019年2月15日	2019年2月16日 ～2019年3月15日	2019年3月16日 ～2019年4月15日	2019年4月16日 ～2019年5月15日
当期分配金	30	30	30	30	30	30
(対基準価額比率)	0.356%	0.355%	0.354%	0.353%	0.352%	0.354%
当期の収益	22	29	28	29	27	23
当期の収益以外	7	0	1	0	2	6
翌期繰越分配対象額	487	486	485	486	485	480

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### (当ファンド)

引き続き、「PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J (JPY)」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### (PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J (JPY))

2019年の米国経済は、過去数年実施されてきた金融緩和縮小の影響が当面は継続するとみられること、財政政策の効果が徐々に剥落すること、中国をはじめとする各国の経済成長鈍化などを背景に2018年以前と比較すると経済成長は鈍化すると引き続き想定しています。一方、FRBが市場に配慮し利上げに慎重な姿勢を示したことは市場の下支え要因になるとも考えられます。

変動利付きであるバンクローンは固定利付きの社債と比較して金利変動による影響を受けにくいという特性があるため、金利リスクを抑えつつ相対的に高いインカムを獲得したいと考える投資家からの需要が見込まれることが同市場のサポート材料になると考えられます。また、多くのバンクローンには担保が設定されデフォルト（債務不履行）時の弁済順位が高いことから、デフォルト時にはハイイールド債券と比較して回収率が相対的に高くなることも期待されます。なお、バンクローン市場のデフォルト率は低水準で推移しており、当面も急激な上昇に直面する可能性は低いと見込まれます。

運用においては長期的なファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）に着目した慎重な銘柄選択および損失の軽減が最も重要であると考えております。引き続き、強固な資本構成を有し、高い参入障壁や堅実な成長性によって事業基盤が安定している銘柄を中心に投資を行なう方針です。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### (マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

2018年11月16日から2019年5月15日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当社ホームページにおいて、より高い安全性を確保するためのセキュリティ対策としてHTTPS化を実施することに伴ない、当ファンドの信託約款における当社ホームページURLの表示を「www.nikkoam.com/」へ変更するべく、2019年2月16日付けにて信託約款に所要の変更を行ないました。(第50条、第50条の2)

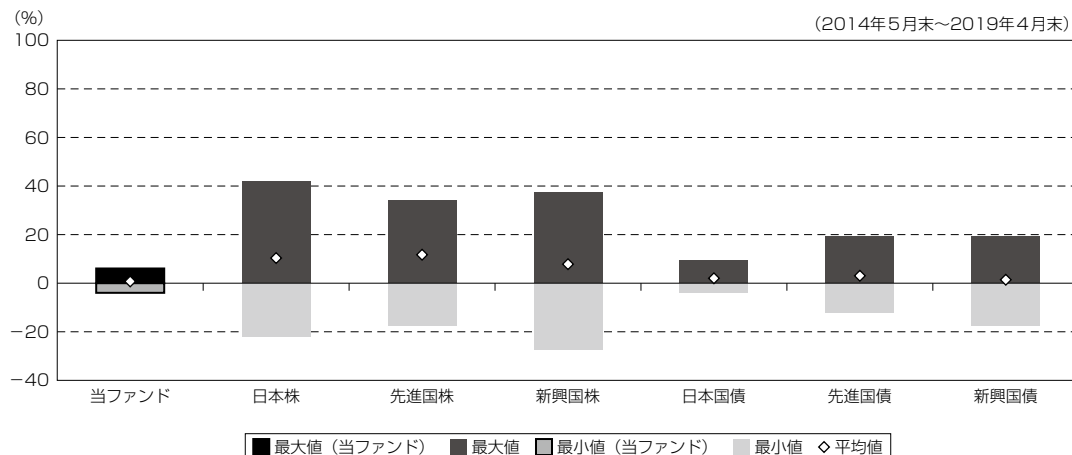
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（バンクローン）
信託期間	2013年8月30日から2023年5月15日までです。
運用方針	主として、米国の優先担保付バンクローン（貸付債権）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J（JPY）」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、米国の優先担保付バンクローン（貸付債権）に実質的に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。流動性などを考慮して、米国のハイイールド社債などへの投資を行なう場合があります。主要投資対象である外国投資信託においては、PIMCO（パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー）が実質的な運用を行ないます。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないます。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時に、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。



(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	6.1	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△4.0	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	0.7	10.4	11.7	7.8	2.0	3.1	1.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年5月から2019年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2014年8月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI Emerging Markets インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCI Emerging Markets インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2019年5月15日現在)

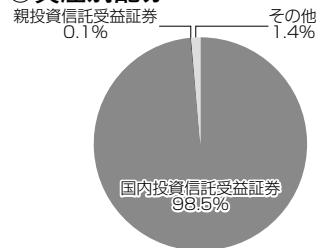
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第69期末
	%
PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J (JPY)	98.5
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

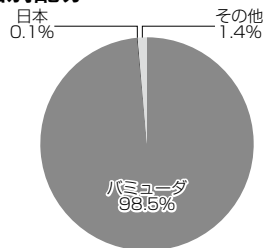
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

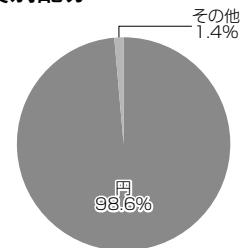
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

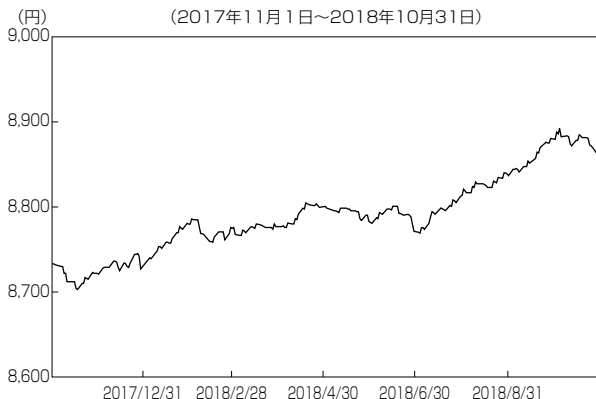
項目	第64期末	第65期末	第66期末	第67期末	第68期末	第69期末
	2018年12月17日	2019年1月15日	2019年2月15日	2019年3月15日	2019年4月15日	2019年5月15日
純資産総額	1,490,653,019円	1,484,573,729円	1,447,923,250円	1,347,031,391円	1,287,982,454円	1,219,427,134円
受益権総口数	1,774,513,041口	1,762,316,325口	1,715,215,182口	1,590,753,713口	1,518,343,983口	1,444,386,248口
1万円当たり基準価額	8,400円	8,424円	8,442円	8,468円	8,483円	8,443円

(注) 当作成期間(第64期~第69期)中における追加設定元本額は25,982,338円、同解約元本額は407,488,535円です。

## 組入上位ファンドの概要

### PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J (JPY)

#### 【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

#### 【1万口当たりの費用明細】

(2017年11月1日～2018年10月31日)  
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載していません。

#### 【組入上位10銘柄】

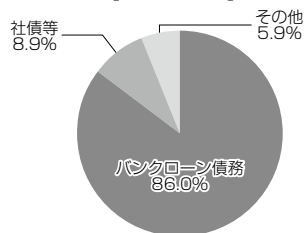
(2018年10月31日現在)

	銘柄名	業種／種別等	通貨	比率 %
1	Financial & Risk U.S. Holdings, Inc. 6.052% due 10/01/2025	バンクローン債務	アメリカドル	1.2
2	Envision Healthcare Corp. 6.052% due 10/10/2025	バンクローン債務	アメリカドル	1.0
3	Starfruit Finco BV 5.506% due 10/01/2025	バンクローン債務	アメリカドル	1.0
4	Bausch Health Cos., Inc. 5.274% due 06/01/2025	バンクローン債務	アメリカドル	0.9
5	Sprint Communications, Inc. 4.813% due 02/02/2024	バンクローン債務	アメリカドル	0.8
6	Numericable U.S. LLC 5.052% due 07/31/2025	バンクローン債務	アメリカドル	0.8
7	Pisces Midco, Inc. 6.175% due 04/12/2025	バンクローン債務	アメリカドル	0.8
8	DaVita, Inc. 5.052% due 06/24/2021	バンクローン債務	アメリカドル	0.8
9	Intelsat Jackson Holdings S.A. 6.045% due 11/27/2023	バンクローン債務	アメリカドル	0.8
10	CPG International LLC 6.251% due 05/05/2024	バンクローン債務	アメリカドル	0.8
組入銘柄数			467銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

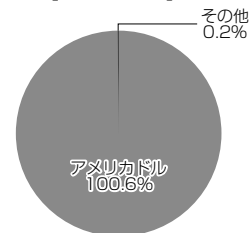
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】

必要な情報が開示されておりません。

#### 【通貨別配分】



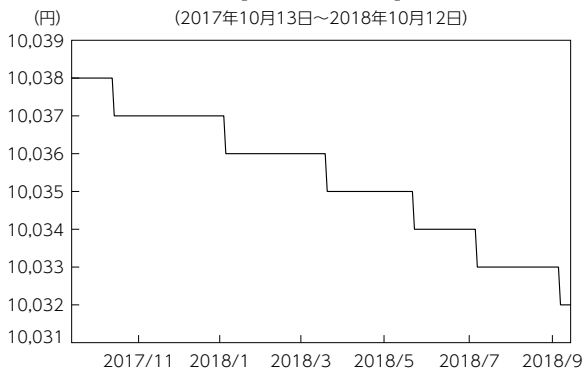
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、実質的な運用を行なっているPIMCOバミューダ・バンク・ローン・ファンド(M)の情報です。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年10月13日～2018年10月12日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年10月13日～2018年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	1 (1)	0.006 (0.006)
合 計	1	0.006

期中の平均基準価額は、10,035円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2018年10月12日現在)

2018年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。